

令和6年度(令和5年度分評価) 学校法人滋慶学園 札幌看護医療専門学校 学校関係者評価委員会 評価結果および改善方策

学校関係者評価員会実施日：令和6年6月5日(水)15時～17時

評価委員：(順不同 敬略 委員長◎) ◎三上真広 加藤 敦 青木一太 佐藤忠寿 中村琢哉 松山淳一郎

【理念・運営目標】	札幌看護医療専門学校は、「職業人教育を通して社会に貢献する」ことを使命とし、「実学教育」「人間教育」「国際教育」を教育の柱とした、業界に直結した職業人の養成を実践する高等教育機関である。また、「学生・保護者からの信頼」「高等学校からの信頼」「業界からの信頼」「地域からの信頼」を得ることを学校運営の基本方針としている。 本校は、産官学を通じた最先端の医療教育とICT教育を展開し、高度な実践能力を備えた「地域医療を支える人材」育成を実現する。また、変化していく高度な実践能力を備えるために先端医療機関と協同しICT教育を開発し続け、教育の機会を創出することで自ら学び成長し続ける人材を輩出する次世代地域医療に貢献できる学校となる。
【組織目的】	札幌看護医療専門学校は、産官学を通じた最先端医療教育とICT教育を展開し、高度な実践能力を備えた「地域医療を支える人材」育成を実現する。また、変化していく高度な実践能力を備えるために先端医療機関と協同しICT教育を開発し続け、教育の機会を創出することで自ら学び成長し続ける人材を輩出する次世代地域医療に貢献できる学校となる。
札幌看護医療専門学校【運営方針】	「産官学連携」「ICT教育」を軸に、学校・学科がONLY1となる。 1. 産官学連携とICT教育システムを完成させる。□ (1) 先端医療機関と連携したICT教育を構築する。 (2) 札幌学院大学との「大専連携」の先進事例をつくる。□ (3) 多職種連携・専門領域「プラスα」のゼミ教育を構築する。 2. 常にイノベーションを図る組織となる。□ (1) 資源活用事業の実施 学校資源(ヒト・モノ・情報)を活用した事業を実施する。 (2) 学科のイノベーション、業界と顧客ニーズに合致した新商品開発を実施する。

※評価は3.2.1のいずれかの3段階評価をお願いします。 評点の表記は平均値のため小数点まで記載されています。

項目	関係資料 コンテンツ	点検項目	令和5(2013)年度 自己点検	令和6(2024)年度 重点目標	昨年度 学校関係者評価 (平均)	本年度 自己点検自己評価	本年度 学校関係者評価 (平均)	学校関係者評価委員よりの御意見	今後の課題・改善方策
					【3段階評点】 3: 出来ている 2: 概ね出来ている 1: 出来ていない	【3段階評点】 3: 出来ている 2: 概ね出来ている 1: 出来ていない	【3段階評点】 3: 出来ている 2: 概ね出来ている 1: 出来ていない		
1 教育理念・目的・育成人材像	教育指導要領 入学案内 事業計画	1-1 理念・目的・育成人材像は定められているか	学園の理念・目的・育成人材像を明確に定めている。 産官学連携とICT教育を学校作りの柱とし、産業界及び地域と共に学ぶ教育環境のもと、最先端の学びで地域に貢献する医療人を養成していく。	2024年度は開校4年目となるが、引き続き学園の理念や学校の方針・特色・将来像については繰り返し職員間で共有し、浸透を図る。	3.0	3.0	3.0	学園の理念のもと、「職業専門実践課程」としての教育体制を追求されている。 教育理念の共有が全職員に図られている。	今後も理念や学校の特色の浸透に尽力するとともに、学校が大切にしている「挨拶(今日も笑顔であいさつを。)」については、より高いレベルで学生・職員が実践できるよう尽力していく。
		1-2 学校の特徴は何か	本校の特色は、「産官学連携とICT教育」である。医療×テクノロジーの新しい学びを推進し、医療現場のIT化、デジタル化に対応しうる人材の育成や産官学連携プログラムの構築により地域医療の発展に貢献できる人材の育成に取り組む。ICT教育を推進しWEBやSNSを通じて情報を常に発信し、新しい医療の学校としての価値(ブランド)を創る。	特に医療とテクノロジーの新しい学びの構築は、授業を実施しながら改善を繰り返していく必要があるため、職員間での学び合いを通じて精度を高めていく。	3.0	3.0	3.0	ICTを活用し、個別最適な学び、協働的な学びが推進されている。学生よりも教職員のICT活用に課題がある場合もある。 理念も共感出来、また職員全員に共有浸透出来ている。 ICT教育を通して次世代の教育ブランドが構築出来ている。	
		1-3 学校の将来構想を抱えているか	将来構想については、毎年作成する事業計画に5年先までの構想を明記し、長期的な視点で学校運営を行っている。刻々と変化する医療業界や地域のニーズを常に取り入れ、学科のイノベーションや新学科・新専攻等をスピード感を持って実践出来る組織にしていく。	イノベーションについては、2022年度から3学科で電子教科書の導入、視能訓練士学科で大学の心理学部等との選択ゼミや臨床工学士学科のオンラインによる業界連携授業を展開しているので、効果検証を行い、ノウハウの蓄積を行って教育成果につなげ、基本に立ち返るべく学生との関係性を持つ時間を構築していく。	3.0	3.0	3.0	挨拶は働く中で対人関係を円滑にする大切な事項であり学校が掲げるモットーの「今日も笑顔で挨拶を」はしっかりと出来るよう今後も続けて欲しい。	
2 学校運営	事業計画	2-4 運営方針は定められているか	学校運営方針は、滋慶学園グループ共通の5カ年計画に基づき、明確に定めている。運営方針の実現のため、月2回の運営会議、月1回の職員全体会議を通じて、問題点や課題を明らかにし、速やかに解決策を出し実行している。	事業計画の推進 計画していた事や目標数値はおおむねクリアできているが、常にイノベーションする事を心掛けて学校運営していきたい。	3.0	3.0	3.0	事業計画は明確で共有されている。 「挑戦し続ける組織」「学びあう組織」を目標とし形にしている姿勢は見習いたい。	事業計画の策定については、引き続き社会の変化を鑑みて常にイノベーションを意識して作成していく。 また開校から4年目を迎えてもなお挑戦し続ける事、職員が学び合う事を大切にした運営を行なっていく。 職員の働き方改革を通じて学生さんとの対話の時間が確保でき、教育成果につながるよう業務のシステム化や省力化に取り組む。
		2-5 事業計画は定められているか	学校の組織目的に沿った事業計画を作成し、毎年の教職員研修で方針・計画を発表している。また、各部署ごとのリーダーも部署別の計画と予算案を作成しスタッフと共有している。 新規校として開校まもないため、学校・学科の教育体制の整備と運営に係る経費の計画的な収支計画に沿った学校運営を図り中長期的な財務基盤の安定に努める必要がある。		3.0	3.0	3.0	システムの効率化を図り学生と向き合う時間を増やす意識は重要と思う。 社会情勢に合わせて常にアップデートが必要である。 学生が安心して学ぶためには、教職員自身が安心して働く場が必要であるが、そのための取組みが充実していると感ずる。	
	事業計画	2-6 運営組織や意思決定機能は、効率的なものになっているか	学校運営に関する意思決定機能は運営会議が担っている。事務局長・学科長・部署長で構成されたメンバーでPDACサイクルを廻すプロセスを構築している。目標志向性の高い組織運営が行われており、組織の全体像は、事業計画書の組織図に示されている。 教職員への通知は、毎日の朝礼・終礼や全体会議、職員間の情報システムを活用して遅れなく周知している。		3.0	3.0	3.0	データーの一元化による効率的な業務運営が行われている。 運営方針～事業計画まで明文化されており、素晴らしい。 就業規則にも時代にあった内容を定められており、コンプライアンスを重視していた。	
	就業規則	2-7 人事や賃金での処遇に関する制度は整備されているか	医療系学校としてのコンプライアンスに則り、人事採用計画、人材育成の研修は、システムとして確立され、機能している。採用は、学園本部が中心となり、採用広報、採用試験を実施している。採用にあたっては、採用基準の基、厳正に実施している。また、学校・チーム・個人の目標を明確にした業務を遂行し、その成果に対して賃金制度を設けている。常に、職場満足度の高い職場環境創りを意識している。	就業規則・・・時代の変化に合わせ、今後も柔軟に対応していく。	3.0	3.0	3.0	意見決定においては全体会議、プロジェクト会議を通じた共有ができており「ガルーン」によるシステムが導入され現場に集中できる環境が構築されている。 挑戦し続ける組織のため持続して成長する組織となっている。	
	事業計画	2-8 意思決定システムは確立されているか	明文化、文章化され定められた事業計画・運営方針を基に、学校運営に関わる全ての人に周知徹底すること、そして、共感してもらうことに、年間通じ力を入れている。各種の研修(教職員・講師)、会議(運営会議・学科会議・部署別会議等)で周知し、運営上、生じる課題についても早めに解決できるように心がけている。	意思決定システム・・・速やかな意思決定と決定事項の迅速な共有を意識していく。 学内システム・・・今後はAI等も取り入れ業務改善に取り組む。(学園内にDX委員会を設置している)	3.0	3.0	3.0	就業規則も整えられ全教職員の意見が反映されるようなシステムとなっている。 開校3年目の慣れや緩みについて改めて気を引き締めて欲しい。	
	学内システム	2-9 情報システム化等による業務の効率化が図られているか	業務のマニュアル化とシステム化が推進され、学校に関する重要データ(学生・卒業生・教職員・広報・財務など)は学園の業務システムで一元管理されている。また、教職員個人の情報交換も「ガルーン」による学内コミュニケーションシステムや勤怠システム、精算管理システム、人事データバンクシステム等を構築し管理している。		3.0	3.0	3.0	業務効率化を図るための情報システム化は更に推進していった欲しい。	

項目	関係資料 コンテンツ	点検項目	2023年度 自己点検	2024年度 重点目標	昨年度 学校関係者評価 (平均)	本年度 自己点検自己評 価	本年度 学校関係者評価 (平均)	学校関係者評価委員よりの御意見	今後の課題
					【3段階評価】 3: 出来ている 2: 概ね出来ている 1: 出来ていない	【3段階評価】 3: 出来ている 2: 概ね出来てい る 1: 出来ていない	【3段階評価】 3: 出来ている 2: 概ね出来ている 1: 出来ていない		
3 教育活動	教育指導要 領	3-10 各学科の教育目 標、育成人材像は、 その学科に対応す る業界の人材ニー ズに向けて正しく方 向付けられているか	教育課程編成委員会を通じて業界の人材ニーズに向けてカリキュラム変更を行っている。また、厚生労働省の指定カリキュラム変更を見据えて各学科の教育協議会との連携を行いカリキュラムを検討した。	・教務研修を年2回学園連携して計画し、基本に立ち返るべく学生との関係性向上を図る内容とし、教育効果を高めていく。 各校で実施の授業アンケートは次年度は法人全体での実施予定。	3.0	3.0	3.0	授業アンケートの結果は学校全体の取組みによるところから大きいと感ずる。 本部主催の教員研修、講師研修だけでなく外部講師研修も行われている等、教育体制の充実にも力を入れている。 教員の資質向上は必須であるが、講師研修が充実している印象がある。 教職員の方への教育も充実しており、外部講師研修会の実施やyoutube配信等積極的に取り入れている姿勢が素晴らしい。 授業アンケートも3年経過した状況で毎年向上されていた。 新デバイス (IPAD) の効果は出ている。 学生の授業アンケートは公開により講義の改革や教育向上につながるので継続して欲しい。 講師研修会等youtubeでの配信等はとても良い。	引き続き、教育課程の策定において業界や業界団体の意見を取り入れ、充実したものにしていく。 また、授業アンケートを年2回継続して実施していくことで常に授業改善に取り組んでいく。 講師、教員のスキル向上につながる研修を今後も継続して実施していく。
	教育指導要 領	3-11 修業年限に対応した教育到達レベルは明確にされているか	実学教育・人間教育・国際教育の理念の下、各学科の養成目的と教育目標を定め、修業年限に応じた教育到達レベルを明確に設定し、教育活動を実践している。コロナ禍の影響で学外実習の制限があり学内実習にて振り返り実習が行われる。教育成果については進級判定会議や卒業判定会議で到達レベルの確認が行われている。		3.0	3.0	3.0		
	教育指導要 領	3-12 カリキュラムは体系的に編成されているか	各学科ごとカリキュラムポリシーを明確に定めカリキュラムを定めている。また、基礎科目、専門基礎科目、専門科目の各都を指導要領上に可視化し、科目間のさらなる連携を図った。		3.0	3.0	3.0		
	教育指導要 領	3-13 学科の各科目は、カリキュラムの中で適正な位置付けをされているか	科目横断的な理解を促すためにも、科目間の連携を図るよう、かつ、学生の習熟度に適合するようカリキュラムマップにより適正な位置づけを行っている。次年度新カリキュラム移行に伴う改定が必要。		3.0	3.0	3.0		
	教育指導要 領	3-14 キャリア教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法などが実施されているか	目標設定、実践、評価のプロセスからキャリア教育の推進を図るため、産学官協同教育のプログラムを導入し、協同研究・開発ができる企業・施設・自治体と連携を図った。昨年度と違い今年度は対面による実施が多くなったが遠方との情報交換ができるオンラインシステム活用も実施し教育効果を高めた。		3.0	3.0	3.0		
	授業調査/ア ンケート	3-15 授業評価の実施・評価体制はあるか	授業アンケートは、9月、12月に実施し学校全体及び科目毎の課題を抽出した。公開授業により、教員自ら授業改善の気付きを促す体制となっている。		3.0	3.0	3.0		
	教育指導要 領	3-16 育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	各専門分野の教員確保に尽力し、組織として教育ができるように配慮している。講師研修会では授業アンケートを元にICT教育の研修を実施し、教員と講師の連携により協力体制を構築している。		3.0	3.0	3.0		
	キャリアサ ポートハンド ブック	3-17 教員の専門性を向上させる研修を行っているか	学園グループ全体の方針に基づいた体系的なFD研修、分野ごとの教育部会にての研修を実施している。また、ICT教育研修会を適時実施し教育力向上に努めた。年2回の職業実践専門課程認定の教員研修会への参加を行い教員の資質向上に努めた。		3.0	3.0	3.0		
	教育指導要 領	3-18 成績評価・単位認定の基準は明確になっているか	成績評価・単位認定の基準は学則、細則に示されているとおり明確である。また、評価の方法に関しても、シラバスに記載し、学生に公開している。		3.0	3.0	3.0		
	ホームページ	3-19 資格取得の指導体制はあるか	各学科にて前年の反省をふまえ国家資格対策を展開した。入学学生の状況を見ると、より早期からの対策が必要である。医療系国試対策委員会にて、学科間にて成功事例を共有し、問題点を検討し全員合格を目指す必要がある。		2.5	3.0	3.0		

項目	関係資料 コンテンツ	点検項目	2023年度 自己点検	2024年度 重点目標	昨年度 学校関係者評価 (平均)	本年度 自己点検自己評 価	本年度 学校関係者評価 (平均)	学校関係者評価委員よりの御意見	今後の課題
					【3段階評価】 3: 出来ている 2: 概ね出来ている 1: 出来ていない	【3段階評価】 3: 出来ている 2: 概ね出来ている 1: 出来ていない	【3段階評価】 3: 出来ている 2: 概ね出来ている 1: 出来ていない		
4 教育成果	ホームページ	4-20 就職率(卒業者就職率・求職者就職率・専門就職率)の向上が図られているか	2024年3月末における就職率向上にむけた取り組みはなされているが、卒業生の就職希望者率は、93%となっており、医療職就職率は99.4%となった。就職希望から外れた主な学生は、進学(2人:学外進学)や、卒業のみ希望(11人)である。一部の学科で国家試験結果後に就職受験の学生が存在しており、受験先への理解と承諾を得ながら3月末での全員内定を目指したい。	学科間連携を行う交流会および授業を実施する。入学前からの低学力者対策およびスクールカウンセラー積極的に各クラスに入り学生サポートおよび教員連携を強化する。担任業務の見直し学生と向き合える時間を講じる。教務事務を設置し、事務作業の軽減に努める。月1回の教務会議で早期に課題を抽出し対応する。	2.7	2.0	2.6	合格率、就職率の向上や退学者の減少に向けた取組みで入学前から対策をすすめる等の努力が認められた。 SSCの土曜日の対応についても成果は出てく ると思われた。退学率の目標が高値に設定さ れているが、前年度より低減されておりSSCの 効果による結果かと思う。	学校の大きな課題として、今後も退学率の低下に取り組んでいく。 また、委員からの提案にあった卒業生を活用した相談の仕組みや、早期からのキャリア教育について検討を進め、取り組んでいく。
	ホームページ	4-21 資格取得率の向上が図られているか	毎年、前年の振り返りとともに、時期ごとの目標設定、各検定試験ごとの目標合格率設定を行っている。また、正課外の補習、個別対応を行っている。入学時の基礎学力テストにより、低学力者の早期発見とサポートを実施しているほか、全学科で自己学習の早期習慣化に取り組んでいる。医療系国家資格の取得については、全4学科中1学科において、100%合格となった。全学科全国平均を上回った。	2学科でAI記憶アプリ「モノグサ」を導入し教育効果を高めていく。	2.7	2.0	2.6	退学要因の単位未取得は、原因にメンタル、動機希薄、目的喪失もあったが、退学者率の改善が図られている。退学者分類のリサーチもされており、課題に対して明確な対応がなされていた。	
	ホームページ	4-22 退学率の低減が図られているか	退学率について、教務会議や運営会議の実施の中で適宜出席率や学業継続へのアプローチは対策を実施してきた結果、2023年度の退学者は5.8%(前年7%)であった。また、一人ひとりの可能性を最大限に開花させるために、転科転校も視野に入れ、本人の新たなキャリアプランをサポートしている。	本年度国家試験未取得者に対する指導について、学校支援を実施していく。 次年度より在校生に対して早期国試対策の強化と個別対応化を図る。	1.8	1.0	2.2	教育成果としては歯科、臨床の退学率も下がっており、国家試験合格者等学校の努力が伺えたが、看護学科の合格率が低かったことに対する手立ての充実が必要か。 同じ悩みを共有できるかもしれないことから卒業生を使ったSSCへの関与もあってもよいと感じた(ボランティア事業等)	
	学校案内より 卒業生紹介	4-23 卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	業界と学校との強固なパイプ作りに、卒業生との連携により就職先状況の把握を実施してきた。	導入教育の強化と資格取得の意義や医療職種就業への意欲を高めるよう対応していく	3.0	3.0	3.0	学生の対応が非常に難しい時代なので担任教員の対応アップの研修は継続してほしい。 早期のキャリア教育を実施しフォローアップを継続して欲しい。	
5 学生支援	キャリアセンター資料	5-24 就職に関する体制は整備されているか	キャリアセンターと教務が一体となって、学生の就職支援にあたっている。各学科の就職活動の時期を意識し、就職講座や一部の学科では企業合同説明会などを開催することにより、就職意識を醸成している。また学生には、企業(求人)情報の提供や状況に合わせた模擬面接を実施するなど、早期就職内定の向上に努めている。一方、キャリアセンターは定期的に各企業へ訪問し、求める人材や業界動向などを察知し、学校(教務)にフィードバックする体制を取っている。→業界訪問については、新型コロナの影響もあり、実施できていなかったが、2023年度においては、訪問を実施予定。	学生の課外活動を推奨していく。具体的には部活動設置の希望があれば検討を進め、ボランティア活動については積極的に推進する。また、救命訓練やAED活用の重要性を地域と連携したイベント(サンビアザ光の広場など)で広報していく。	3.0	3.0	3.0		課外活動は学生にも大きな刺激となり他学科も幼児や小学生と触れ合える機会があればよいと思った。 保護者との連携は重要と思うが、講師や職員の負担が過多にならないければよい。 早めのアプローチがどう合格につながるか注釈することが必要。 SSCのメンタル対策の充実(土曜開催)は学生が授業のない日の相談出来るなどの工夫が好印象であった。 地域と協働して活動は必須である。 オンラインを活用しての保護者会は好印象であった。 スケールメリットを活かした対応が出来ることが多く、素晴らしいと思った。 地域と協力して学生支援を行われていた。 キャリアアップ事業などを充実して欲しい。 一部の学科での同窓会は開催され活動しておりますが全学科合同での同窓会組織活動について今後の方針が知りたい。 学まちネット等本校独自の取組みはもっとアピールしてもよいと思う。 就職の多様性を広げられれば学生も保護者も心強いと思う。
	キャリアサポーターハンドブック	5-25 学生相談に関する体制は整備されているか	カウンセラー(臨床心理士)が勤務するSSC(スチューデントサービスセンター)が整備されている。全学科の入学前保護者説明会にて、SSCを紹介するリーフレットを配布している。		3.0	3.0	3.0		
	ファイナンシャルアドバイザー資料/学生募集要項	5-26 学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか	本校の学生の71%が給付奨学金を含む日本学生支援機構の奨学金利用者であり公的支援制度の利用率は非常に高い。そのため学生支援事務局においても奨学金に関する専門スタッフの育成と学生教育に力を入れている。また、家庭の状況に応じた相談も行っており、学費納入方法についても柔軟に対応している。学科においては年に1回保護者会を実施し情報の告知と案内の徹底を図っている。		3.0	3.0	3.0		
	衛生委員会資料	5-27 学生の健康管理を担う組織体制はあるか	日本健康倶楽部(2021年10月からは札幌検診センターに変更)での健康診断の実施に関しては学校保健法に規定するコンプライアンスを遵守し、学生の健康状態の把握と改善を行い、医療法人慶心会による健康管理体制の協力により健康管理の組織体制は整っている。		3.0	3.0	3.0		
	学生便覧	5-28 課外活動に対する支援体制は整備されているか	地域と協力し、歯科衛生士学科において幼児向けの歯ブラシ指導等の予防教育、視能訓練士学科において地域の保育園児の眼科検査にあたった。		3.0	3.0	3.0		
	学生寮紹介パンフ	5-29 学生寮等、学生の生活環境への支援は行われているか	寮については恵庭地区に男子寮1棟、女子寮1棟、男女共用寮2棟、札幌地区に男女寮1棟を有しており、地方からの学生にも対応できる体制となっている(札幌寮は2025年閉寮)が新札幌地区の不動産会社と連携し近隣の物件についても情報提供できる体制を整えている。		3.0	3.0	3.0		
	各保護者会資料	5-30 保護者と適切に連携しているか	各学科においてオンラインを含めた保護者会を入学後学年ごとに実施をしている。保護者説明会では、学習面、就職面、国家試験等の報告を実施の他、必要に応じ学費相談や個別保護者面談による問題解決を行っている。	同窓会活動については今後積極的に活動を行う方向性で検討。	3.0	3.0	3.0		
	各卒後セミナー/勉強会	5-31 卒業生への支援体制はあるか	北海道ハイテクノロジー専門学校卒業生と、2022年3月本校卒業生に対して、同窓会組織を結成しており、各学科では勉強会等の卒後教育の実践にあたっている。コロナの影響で、実施は臨床工学技士学科のみ。(リモート)		2.5	3.0	2.8		

項目	関係資料 コンテンツ	点検項目	2023年度 自己点検	2024年度 重点目標	昨年度 学校関係者評価 (平均)	本年度 自己点検自己評 価	本年度 学校関係者評価 (平均)	今後の課題	
					【3段階評価】 3:出来ている 2:概ね出来ている 1:出来ていない	【3段階評価】 3:出来ている 2:概ね出来てい る 1:出来ていない	【3段階評価】 3:出来ている 2:概ね出来ている 1:出来ていない		
6 教育環境	口頭説明	6-32 施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	法規上の施設設備は整っているが、実学教育実践のための学内実習の充実のため、電子教科書は3学科で導入され、各学科充電設備を導入。ネット回線も増強。Sharepoint環境を構築し情報の一元化を実施。2024年度本格運用となる。	・教務事務主体に新入生ICT導入の実施 ・生成AIガイドラインを制定しChatGPTの利活用について学生にアナウンス 海外研修についてはアフターコロナで実施できる状況を鑑み学園全体で実施方向で検討中	3.0	3.0	3.0	ICT環境、教育実習設備も充分整備されていると思った。 札学大との連携協定や施設の共同利用等、学習環境にも配慮されている。	引き続き学生さんの学習環境の整備を行なってい き、社会の変化に合わせたICT教育の充実などに尽 力していく。 地域貢献については、学校の特長の1つとして位置 付けているため引き続き新さっぽろ地区をはじめとす る産官学連携を進めていく。
	海外研修資 料	6-33 学外実習、インター ンシップ、海外研修 等について十分な 教育体制を整備し ているか	学外実習については、十分な教育体制を整備しており、学科ごとに企業と連携した 実習が計画されている。海外研修は、海外紛争の影響のため授業や特別講話にて 体験を聴講。 海外研修についてはアフターコロナで実施できる状況 を鑑み学園全体で実施方向で検討中		3.0	3.0	3.0	文教地区として地域とともに発展していただき たい。 実習先で働ける安心感は好印象。 新築の校舎、立地条件から環境も充実されて いる。 「学まちネット」を構築し、地域貢献を行ってい る。 避難訓練、救急訓練を定期的に行っていた。 地域貢献して学校の価値を高めて欲しい。 教育環境は日本でも有数の設備が整ってお り、他校よりも魅力を感じる。今後この設備をど う維持継続していくか課題。	
	防災訓練資 料	6-34 防災に対する体制 は整備されているか	全学生および教職員の防災訓練は実施でき、防災の意識を高めている。学生、教職 員ともに災害時の安否確認システムを各校で有し訓練を行っている。 AEDは設置しており、次年度は救急時における知識の習得と意識付け研修を実施 予定。		3.0	3.0	3.0		
7 学生の募集と 受け入れ	募集要項	7-35 学生募集活動は、 適正に行われてい るか	学生募集活動は、専修各連の定める募集基準に則り、AOエントリーは6月から、出 願は9月からその他の受験方法による出願は10月から受け付けている。募集要項に 関しては、入試制度、奨学金制度、学費に関して受験生にとってわかりやすい掲載 方法を実施している。	産官学連携、ICT教育(最新の校舎設備)を軸に価値 の最大化を図る。またSNSを活用し学校、学科の思い や価値観を発信することで入学後のギャップをなくす 募集活動を展開する。	3.0	3.0	3.0	ICTを活用したオープンキャンパスは、道内外にも効果を 期待できる。 街全体がキャンパスの発想で大学や地域も医療機関も 一体となっているのは学校のよい特色で更に相乗効果も 期待できそうに思えた。 学生募集は全学科で4年連続で充実している。イベント 開催やオープンキャンパスを通じて学校の特長を伝えら れている。 看護学科の志願者減数は、学校に起因するものばかり ではない。現状は結果を残しており定員を確保できてい る。 「安心して通わせることができる学校」として様々な場 面でPRL、特色を活かしたブランド化をして欲しい。 以前の学校から比較してよくなった点等、卒業生の子 供たちにも学校の魅力を伝えてほしい。 職業体験フェスタ等は各職能団体での職業認知が課題 なので今後の継続に期待	引き続き受験生に学校の特長や魅力が伝わる広報 活動を継続していくとともに、委員から提案のあつ た、保護者の視点から「安心して通わせることができ る学校」という学校ブランドの構築、卒業生に向けた 広報活動に務める。 また、各職能団体と連携して職業認知を高める取 組みを行っていく。
	入学案内/ 募集要項	7-36 学生募集において 教育成果は正確に 伝えられているか	教育の成果はHPや媒体を通じて広く発信。オープンキャンパスを通じて学校の特徴 を体感できるプログラムを構築している。また、他部署(北海道進路センター)と協力 し地方都市での説明会を実施、地方在住の高校生を動員することができた。		3.0	3.0	3.0		
	学則	7-37 入学選考は適正か つ公平な基準に基 づき行われている か	学則を基にし、募集要項で明記した入学選考方法通り選考をしており、入学選考委 員会を設け入学試験の判定会議を適正かつ公平な基準のもとに実施している。		3.0	3.0	3.0		
	学生募集要 項	7-38 学納金は妥当なも のとなっているか	学納金は適正かつ妥当なものと考えており、その納付金額、方法に関する情報も適 正に行っている。		3.0	3.0	3.0		
8.財務	財務資料	8-39 中長期的に学校の 財務基盤は安定し ているといえるか	キャッシュフローの形態を重視し、収入と支出のバランスはとれており、貸借対照表 の翌年度繰越収入超過金はなく負債における問題はない。	予算と実績の差異については、過去2年間の実績をも とに精緻な予算をたて、定点チェックする事で実績を 管理していく。	3.0	3.0	3.0	財務監査、財務の情報公開を実施されている。 今後も常に定点チェックを行い、光熱費の削減や無 駄をなくすなどの取り組みを通じて、学生さんの教育 に投資できる予算を確保できるよう財務体制の強化 に努める。	
		8-40 予算・収支計画は有 効かつ妥当なもの となっているか	校舎の新築による設備投資に対する返済計画と事業収支計画を見直し学校及び法人 運営の中長期的な財務基盤の安定に努める必要がある。運営面においては管理 費等の項目で予算と実績の差異が生じた。		2.6	3.0	3.0		
		8-41 財務について会計 監査が適正に行わ れているか	理事会においての内容精査し、監事による監査と外部の監査法人である公認会計 士の監査を行っている。		3.0	3.0	3.0		
		8-42 財務情報公開の体 制整備はできている か	「財務情報公開規程」を作成し財務情報の公開にあたって必要最低限の項目を定め 公開している。具体的な事項は「情報公開マニュアル」を作成し、「財務情報公開規 程」により管理、運営を行っている。		3.0	3.0	3.0		
9.法令等の遵守	監査資料	9-43 法令、設置基準等 の遵守と適正な運 営がなされているか	法令や設置基準の変更等に伴う申請手続き等を迅速に対応できる体制づくりを行っ ている。教員間での法令・基準の遵守に対する教育、又は研修を継続的に実施して いる。 また、監事による毎年の監査によりコンプライアンスの実施状況についてチェックし ている。	引き続き法令順守、個人情報保護、自己点検・自己評 価に基づく学校運営の改善を図ってい。	3.0	3.0	3.0	北海道および厚生労働大臣の認可校としての 監査においても指摘事項はない。 引き続きコンプライアンスを重視した運営を行ってい く。	
	ホームページ	9-44 個人情報に関し、そ の保護のための対 策がとられているか	日本プライバシー認証機構より個人情報保護規程運用状況監査を受け、学生、保 護者、企業、講師、入学希望者についての個人情報保護について、規定に則り運用 を行っている。また、スキル向上のための取り組みとしてITリテラシー資格の取得や 研修会を実施している。		3.0	3.0	3.0		
	ホームページ	9-45 自己点検・自己評価 の実施と問題点の 改善に努めている か	自己点検・自己評価についての方針、実施を開始し、委員会の形成と外部評価を実施 している。 学校関係者評価、並びに教育課程編成委員会での意見を十分に反映し、カリキュ ラムの見直しやICT教育を含めた新しい教育体制の確立に向けて準備を行っている。		3.0	3.0	3.0		
	ホームページ	9-46 自己点検・自己評価 結果を公開している か	毎年自己点検・自己評価を実施し、HPによる公開は既に実施している。 自己点検自己評価結果をもとに、重点課題について学校関係者評価員と学校づくり の検討を行い、更なる評価の向上に努めている。		3.0	3.0	3.0		

項目	関係資料 コンテンツ	点検項目	2023年度 自己点検	2024年度 重点目標	昨年度 学校関係者評価 (平均)	本年度 自己点検自己評 価	本年度 学校関係者評価 (平均)	学校関係者評価委員よりの御意見	今後の課題
					【3段階評価】 3:出来ている 2:概ね出来ている 1:出来ていない	【3段階評価】 3:出来ている 2:概ね出来てい る 1:出来ていない	【3段階評価】 3:出来ている 2:概ね出来ている 1:出来ていない		
10.社会貢献	各種セミナー 資料	10-47 学校の教育資源や 施設を活用した社 会貢献を行っている か	9月～11月に地域の方を対象とした「地域医療セミナー」を開催し、毎回定員になる ほど好評を得た。 また、札幌学院大学と連携し、地域内のAEDの実態調査と救命講習を実施。さらに 厚別区内にある老健施設の職員向けの救命講習会を実施した。	今後も地域との連携を重点課題とし、厚別区・新札幌 地区と連携して地域でのボランティア活動と地域課題 の解決に取り組んでいく。 具体的には、 ・事務局長が厚別区区民協議会、新さっぽろエリア マネジメントのメンバーとして参画して地域との連携を 図る。 ・近隣保育園と連携した歯科講座や視能訓練講座 の実習プログラムの実施 ・厚別区民祭り等での地域健康イベント(無料血圧 測定や視力検査)、子供向け職業体験の実施などを 実施していく。 また、学校資源を活用した取り組みを推進する「学校 資源活用事業」を2024年度計画に盛り込み、実行して いく。	3.0	3.0	3.0	地域セミナーの取組みや地域との連携を意識 した活動を今後も期待している。 地域に信頼される学校づくりの姿勢は非常に 評価できる。 関連セミナーの開催等社会貢献をされている。 地域連携や学まちネット等地域に密着したボラ ンティアに取り組んでいることに感心し、今後も 期待。	今後も医療セミナーやボランティア活動の推進など、 地域の信頼が得られる活動を行なっていく。
	各種ボラン ティア紹介	10-48 学生のボランティア 活動を奨励、支援し ているか	地域と協力し、歯科衛生士学科において幼児向けの歯ブラシ指導等の予防教育、 視能訓練士学科において地域の保育園児の眼科検査にあたった。		3.0	3.0	3.0		
11 国際交流	口頭説明	11-49 グローバル人材の 育成に向けた国際 交流などの取り組 みを行っているか	海外紛争の影響により海外渡航の禁止と合わせて海外研修は実施していない。し かしながら学生に国際教育を提供するため、海外とのオンライン講話や国際経験が ある講師に授業を通じて教育を各学科で開催した。	学園のグループネットワークを活用し、海外研修を実 施していく。	3.0	3.0	2.8	グローバルな視点は医療においても重要であ る。 2024年度はアメリカ研修を計画中。オンライ ンセミナーの実施されているので楽しみであ る。	社会情勢を見ながら海外研修を企画、実施していく。